

# AI時代の クリエイティブ資産

Creative Assets in the age of AI

令和8年3月12日

エンタメ・クリエイティブ産業政策研究会

小松 尚平（一般社団法人デザインシップ 理事）



## 若手デザイナーを阻む「素材の壁」

## デジタルデザインのAI代替という脅威

## UIデザインのコモディティ化

Figma AIや生成AIの統合により、画面上の「美」や「使いやすさ」はボタン一つで生成可能に。

かつてのUX/UIデザインは急速にコモディティ化し単体での付加価値維持は不可能。20-30代のデジタルデザイナーは「その先」の価値を希求している。

## 「機能」から「物質」へ

AIが生成する「確率的な最適解」に欠落しているのは、触覚・素材・重さ・時間という物質的固有性。

若手（特にデジタル）デザイナーはAIに奪われない「唯一無二の物質価値」への回帰を求めているが、その参入ハードルが絶望的に高い。

## 若手デザイナーを阻む「素材の壁」

## AIが生む「ものづくり回帰」

Designshipに参加する20-30代のデジタルデザイナーから、物質的なモノづくりへの渴望を聞く機会が増えている。AIが効率を高める一方、仕事の"質"向上を実感するデザイナーは半数以下（Figma, 2025）。Gen Zを中心にDIY・クラフト回帰のトレンドも世界的に顕在化しており、画面の外への志向は個人的感覚ではなく世代的潮流である。

## 「作りたくても、作れない」日本

日本の伝統産地や町工場が抱える卓越したCMF（素材・色・加工）情報は、デジタルデータとして構造化されておらず、属人的な「暗黙知」にみえてしまっている。素材の物性データ、小ロット対応の工場、加工賃の透明性が欠落しており、デジタルネイティブにはアクセス不能。作り手の創作意欲を製品化へと繋げるプラットフォームが決定的に不足している。

※Figma 2025 AI Report (n=1,800、7カ国) : AIが効率向上と同意78%、質向上を実感<50%

／ Gen ZのDIY・クラフト回帰はWoke Waves / VML Future 100等複数のカルチャートレンドレポートで報告

## 製造インフラの国際格差

## 若手クリエイターの製造を阻むものとは？

比較項目	日本（現状：点在するアーカイブ）	中国（深セン・広州：製造OS）	韓国（ソウル：素材資本）
素材・技術DB	資料館等に眠る「静的記録」。 活用には属人的な紹介が必須。	1688.com / 共通素材バンク あらゆる素材・加工賃が透明化、Web完結。	KIDP / CMFライブラリ (SwatchOn VMOD) 行政連携で数万種の素材をデジタル化。
デザインと製造	職人の暗黙知。若手は「門前払い」。 試作に数ヶ月を要する。	D2M (Design to Manufacturing) 設計データから即時に試作可能な環境。	KIDP 7UPプログラム 製造SMEとデザイナーの 産地連携を行政主導で推進。
若手の参入障壁	高い（参入不可能）	極めて低い（誰でもメーカー化）	低い（国がインフラを完備）

出典: 1688.com (Alibaba Cloud公式)

/ KIDP 7UPプログラム (MoTIE・2023年～) / SwatchOn VMOD 3D Library

## 現状

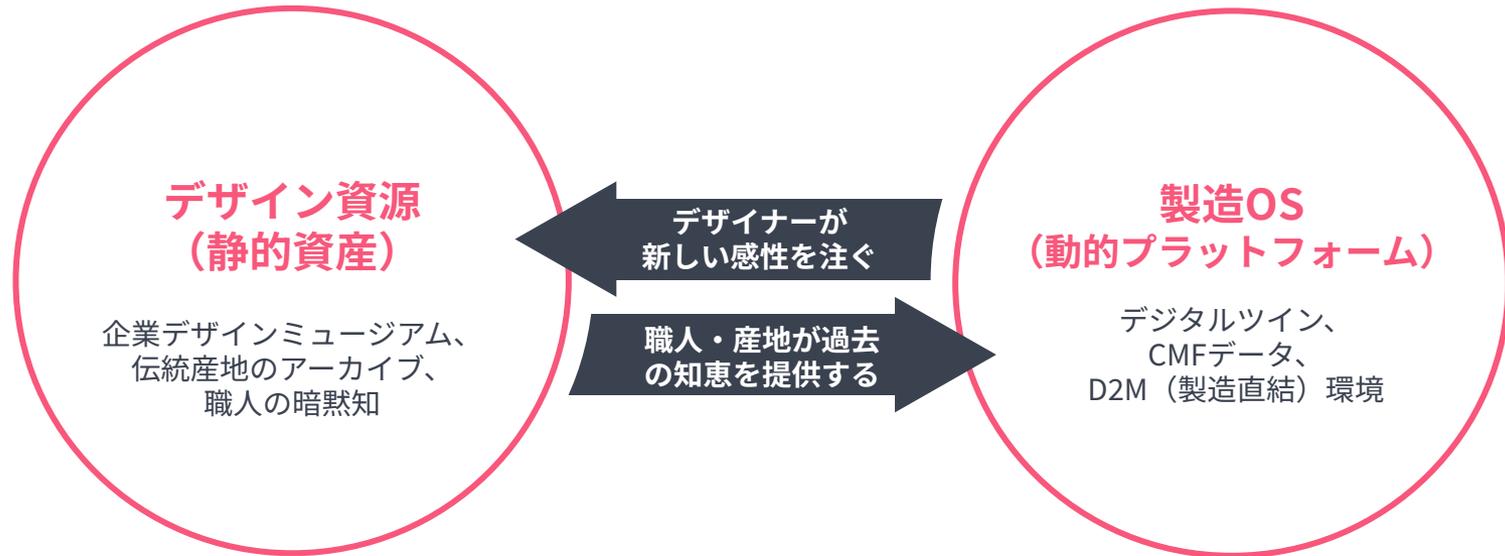
現在の「デザイン資源DB」は  
過去のアーカイブとしての  
「保存」に留まっている

## ニーズ

若手が求めるのは「作品資料」  
ではなく、今すぐ制作の参考  
になる設計データ

「静的アーカイブ」から「動的OS」への転換課題  
「保存」から「活用」へ

## 日本の「作る力」を動かす仕組み

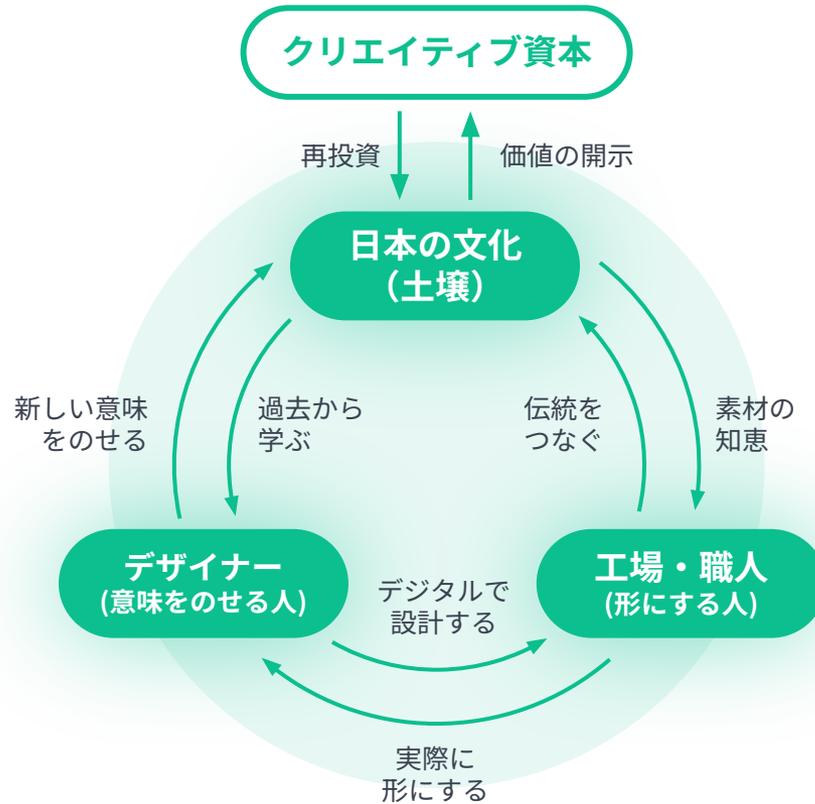


日本中の「いいもの」と「デジタルの力」をつなげる

AIには作れない価値を世界へ

目指すべき姿

# 日本の個性を、世界に響く「選ばれる価値」へ



# 日本の個性を『クリエイティブ資産』へ

おわりに

## クリエイティブ産業振興に向けた3つのアクション

デザイン資源DBの  
「活用機能」拡張

デザイン資源DBの蓄積を活かし、工場などとの連携機能を加えることで、デザイナーが実際に「作り始められる」プラットフォームへと発展させる。

※METI資料p.25「デザイン資源データベース事業」の次フェーズとして位置付け

デジタルデザイナー×  
産地マッチング事業

若手デジタルデザイナーと伝統産地・町工場をつなぐ実証マッチング事業を創設する。国内のデザイナー×産地マッチング基盤を構築する。

※参考：韓国MoTIE・KIDP 7UPプログラム（2023年～）

小ロット試作への  
プロトタイプング補助

素材調達・試作コストへの補助制度を創設し、「作りたくても作れない」デジタルデザイナーの物質的ものづくりへの参入障壁を直接解消する。

※対象：デジタルバックグラウンドを持つ若手デザイナー

**デザイナーと職人・工場が出会う仕組みが  
日本のクリエイティブ資産を動かす。**

*DesignShip*